

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 卒業生および就職先に対し、学科単位で最長でも8年に一度アンケート調査を実施する。	→アンケート調査の実施間隔、および集計結果・検討結果の報告。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

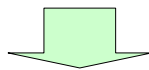
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 学習成果の指標としては、卒業研究の評価、TOEICのスコア、大学院への進学率や就職状況が挙げられる。また、カリキュラムが教育目標に沿ったものであるとの前提に立つなら、4年次への現役進級率も学習成果の有用な指標と考えられるため、この分析を進める予定である。卒業生からのフィードバックは改組の機会に行っているが、これを定期的・継続的に行って行く必要がある。 (現状説明) 卒業生へのアンケートは、2002年度改組時に物理学科と化学科、2009年度改組時に生命科学科と情報科学科で実施しており、近い機会に物理学科と化学科で再度実施したいと考えている。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 学位授与の基準および手続きに関しては、教授会の議を経て厳格に行っており、問題が生じる余地はないと考える。卒業後の評価については、6.4.1のアンケートで実施する計画である。
☆ その他	

### ◎効果が上がっている事項

#### 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	



#### 【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

小項目6.4.1	
☆ 小項目6.4.2	
その他	

## ◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.4.1	学習効果の測定指標について検討が必要である。
☆ 小項目6.4.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.4.1	大学院への進学率、就職状況、4年次への現役進級率について分析を行う。
☆ 小項目6.4.2	
その他	

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

- 進捗状況は必ずしも順調ではありませんが、記述から着実にきめ細かな教育がなされていることがうかがえて、評価できます。
- 「目標」2の成績不振学生への対応については、今後留年・退学率の変化との関係にも着目して、データを活用することが期待されます(評価項目としては「学生の受け入れ」になるでしょう)

## 【学内委員】

- 「卒業生および就職先に対し、学科単位で最長でも8年に一度アンケート調査を実施する。」ことが目標である。アンケート実施の大変さは理解できますが、学部全体での一斉調査を考えると良いのではと思われます。また最長8年ということですが、8年とするならば、その結果を社会に反映できるのは12年後、さらに理工学部の大学院進学率を考えると14年後になるので適切なスパンを検討することが望まれます。
- 学位授与は適切に行われていると考えられますが、教育の成果についての評価を行うアンケート調査は一部の学科のみでしか実施されておらず、今後理工学部の全学科で実施することが望まれます。また、アンケートの実施に留まらず、その内容を検討し、結果を積極的に公表することが求められます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

<個別的な指標>
